

く物語で、旧約聖書「ダニエル書」の6章に出てくるが、大多数の日本人観客には、まるでちんぷんかんぷんだ。さあどうする？

この映画の翻訳者はベテランのKさんで、このセリフを制限字数 15 字ぎりぎり、このように訳された。

「俺“ライオンとダニエル”じゃないぞ」

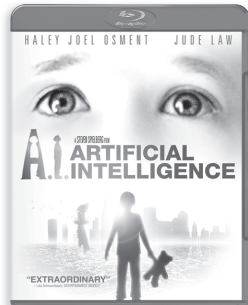
翻訳としては、よくこの字数に収めて、まったく問題ないのだが、一瞬にはまず分からない。今の観客なら、ヘタをすると「ライオンと魔女」の続編か、と思いかねない。そこで字幕伝道のミッションを帯びた私が、一生懸命考えて、こうさせてもらった。

「聖書の“獅子の穴のダニエル”かよ」(14字)

どうだろう、“聖書の”の3字の補いが、魔法のような力を持っていることを、納得していただけたらだろうか。

◆キリストのことばはハイテク時代にも生きてる！

— 映画「A.I.」—



「A.I.」

ブルーレイ ¥2,381+税
DVD ¥1,429 +税
ワーナー・ブラザーズ ホームエンターテインメント
© 2001 Warner Bros. Entertainment Inc. and Dreamworks LLC. All rights reserved.

昨今のロボット技術は目覚ましい。

A.I. (Artificial Intelligence) = 人工知能がどんどん進化しているからだ。この映画は2001年、かれこれ20年近くも前に作られたのに、さらに進化して人間の感情を持ってしまうA.I.の少年が主人公だから、さすがスピルバーグ、未来を数歩も先取りしていた。

この中で、ジョンソン^{きょう}卿が見物人にこう叫ぶシーンがある。

「Let he, who is without Sim, cast the first stone.」

Sim は Simulator 実験装置の略で、翻訳者の訳は「メカを必要とせぬ者よ、石を取り彼を打て」という直訳調だ

った。翻訳的には何の問題もないが、聖書やキリスト教にあまり縁のない日本人観客の多くは、「この近未来の世界で、『石を投げる』って何？」といぶかること必定だ。

実はこの出典は、新約聖書のヨハネの福音書8章7節の次のことばなのだ。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」

これは、自分の罪を尻目に、^{かんいん}姦淫の女をとがめる人々への、キリストの怒りと叱責のことばで、映画のセリフのSim (実験装置) はSin(罪)のもじりなのだ。このような場合、翻訳者は、その場面で話している意味を重視した直訳にすべきか、聖書が出どころであることが分かる準聖書訳にすべきかの二者択一に悩むことになる。私は翻訳者に代わって(!)悩んだ末、この映画の脚本家の聖書引用の意図を生かし、あえて「罪のない者が最初に彼女に石を投げよ」と直した。これだと、逆に観客は、なぜこんな“場違いな”セリフを言うのか思うだろうが、これが聖書(らしきことば?)の引用だということは、まず100パーセント分かる。

また映画の前後の文脈から、この叱責の意味するところも推測できる。かくしてキリストのことばは、ハイテク最先端の近未来にも生き残ったのだ!



◆聖書劇のセリフは、聖書そのものの証し

— 映画「ベン・ハー」—

1959年公開のこの映画は、ルー・ウォーレス将軍が書いた小説の3度めの映画化で、監督ウィリアム・ワイラー、主演チャールトン・ヘストン、アカデミー賞最多の11部門で受賞したキリスト教史劇の名作だ。このMGM社作品を、ビデオはワーナーが再発売することになり、私が1,000枚以上の字幕をすべてチェックした。